

百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録に向けての提言



平成 24 年 度

堺 市 議 会

世界遺産・国際文化調査特別委員会

はじめに

百舌鳥古墳群と古市古墳群は、世界最大級の墳墓である仁徳天皇陵古墳をはじめとする我が国を代表する巨大古墳群であり、その歴史的な価値は古墳文化にとどまらず日本の古代国家成立過程を考察するうえでも極めて重要であり、世界に誇るべき人類共通の財産である。

本市では、百舌鳥・古市古墳群を世界文化遺産へ登録するための取り組みを進めており、平成22年11月には、同古墳群がユネスコの世界遺産暫定一覧表に記載された。現在、大阪府、羽曳野市、藤井寺市とともに「百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議」を立ち上げ、早期の登録実現に向けて鋭意取り組んでいるところである。

とりわけ本市においては、仁徳天皇陵古墳をはじめとする大小さまざまな古墳が人々の生活に密着するかたちで存在しており、古くから市民に親しまれてきた。そのため世界文化遺産登録とともに古墳を活かした特色あるまちづくりも着実に進めていかなければならないと考える。

また、世界文化遺産への登録を実現させるには、行政の活動だけでなく、なにより市民の参加・協力が必要不可欠であり、そのためにもこれまで以上に登録へ向けた市民の機運醸成に取り組まなければならない。

これらを背景に、世界遺産・国際文化調査特別委員会では、今年度、「百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録に向けた取り組みについて」を調査テーマとし、委員会の議論及び市内外への視察調査、学識経験者を招いての研修会などを開催してきた。それらを踏まえ、世界文化遺産登録に向けた取り組みや古墳を活用したまちづくり等について現時点における提言を取りまとめた。

当局におかれては、本提言を尊重し、明確なビジョンのもと各部局間において連携をはかり、早期の世界文化遺産登録の実現とそれにふさわしいまちづくりを推進していただくよう要望する。

【現 状】

- 世界文化遺産登録に向けた市民の関心が未だ低く、機運が十分に高まっているとはいえない。
- 仁徳天皇陵古墳をはじめ百舌鳥古墳群に関する認知度・知名度が国内外で依然として低い状況である。

**【提 言】****(1) 機運の醸成**

百舌鳥古墳群に関する価値等の啓発活動を充実させ、世界文化遺産登録に向けて市民の機運を盛り上げていくこと。また、地元住民が主体的に活動へ参画できるよう、支援策を検討すること。

【施 策 案】

- ◇地元住民を対象としたシンポジウムやフォーラムなどを継続的に開催する。
- ◇世界文化遺産登録推進の日を制定し市民の登録への機運を盛り上げる。

(2) PR活動の強化

国内外に対して、仁徳天皇陵古墳をはじめ百舌鳥古墳群の価値や雄大さなどについて周知を図る取り組みを強化すること。

【施 策 案】

- ◇市民が親しみを持てるマスコットキャラクターなどを活用し、PR活動の強化を図る。
- ◇積極的にマスコミやインターネットを利用したPR活動を行う。
- ◇本庁舎内や各区役所にPR用の常設ブースを設置する。

【現 状】

- 古墳本体や濠の水質など、古墳及び周辺の環境をどのように保護・保存していくか市としての具体的方策がまとまっていない。
- 世界文化遺産登録にあたり、古墳を周辺地域と一体的に保護するために設ける緩衝地帯（バッファゾーン）について、具体的な範囲設定や、資産保全に関する整備方法が定まっていない。また、古墳周辺に文化遺産にそぐわない建物や広告物が存在している。

**【提 言】****（１）古墳及び周辺環境の保全**

陵墓以外の古墳について早期の史跡指定に取り組むなど古墳及び周辺環境に対する万全の保護措置を講じ、将来にわたる古墳の保護・保存を図るしくみを検討すること。

〔施 策 案〕

◇護岸工事の際には、より耐用年数のある石積みで行う。また定期的に濠の排水やしゅんせつを行うなどにより水質の改善を図る。

（２）バッファゾーンの設定

高度に都市化している周辺地域等とのバランスを図りつつ、どこまでの範囲で、どのような制限が望ましいのかを慎重に検討すること。また、周辺環境の保全のための具体的手法等も適切に定めていくこと。

【現 状】

- 百舌鳥古墳群を活用してどのようなまちづくりを進めるのか、どのようなコンセプトでデザインを描くのか明確でない。
- 最寄り駅から各古墳までのアクセス、とりわけ歩道、周遊路など百舌鳥古墳群周辺の基盤整備が進んでいない。

**【提 言】****(1) 百舌鳥古墳群を活用したまちづくり**

「歴史まちづくり法（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律）」の制度も活用するなど、古墳の魅力を満喫できる優れた町並みの創出をめざしていくこと。また、堺市全体のまちづくりとの整合性を図るとともに、文化観光拠点ともリンクをさせ、百舌鳥古墳群を中心とする歴史的な遺産とのネットワークを構築すること。また、その際には周辺住民をはじめ市民等の意見を反映させること。

(2) 交通アクセスの整備

主要駅の駅前整備や周遊路を含む古墳群周辺の基盤整備を早期に行うこと。また、バスルートの構築など、来訪者が快適に移動できる交通環境の構築に取り組むこと。

【施 策 案】

- ◇J R三国ヶ丘駅前周辺や、跨線橋を含めたJ R百舌鳥駅前周辺を整備する。
- ◇最寄り駅から古墳までの歩道や古墳群の周遊路の未整備区間については早期に整備する。
- ◇主要な古墳間に自転車道を整備する。
- ◇古墳間を周遊するバスルートを構築する。
- ◇文化観光拠点から百舌鳥古墳群へのアクセスと関連させた阪堺線利用の計画を作成する。

【現 状】

- 来訪者に対する案内マップや古墳名の案内表示などが不足している。また、周辺で飲食できる場所や宿泊施設が不足している。
- 古墳群の全景を上から見ることができず、古墳の全体像が分かりにくい。
- ガイドンス施設を含め、旧大阪女子大学跡地の利用計画が明確になっていない。

**【提 言】****(1) 来訪者の受け入れ態勢の整備**

世界文化遺産登録への取り組みと並行して、リピーターを獲得するための工夫も含め来訪者が古墳群の雄大さを体感できるしくみを構築するとともに、各種案内施策の充実や飲食・宿泊関連施設の充実を進めていくこと。

【施 策 案】

- ◇気球など古墳を上から見るができるしくみを構築する。
- ◇陵墓・陵墓参考地でない古墳の一部については、古墳築造時の様子がわかるような復元を行う。
- ◇古墳を快適に周遊できるようルート案内や各種サイン、トイレ、休憩・飲食施設を整備する。
- ◇観光客にとって魅力あるホテルを市内に誘致する。
- ◇来訪者に感動を提供できるようなツアーを旅行会社とともに企画する。

(2) ガイドンス施設の整備

百舌鳥古墳群の模型、埴輪、ふき石などの展示を充実するとともに、百舌鳥野のバーチャル体験を可能とするなど、小・中学生を含む来訪者が古墳築造当時の状況や堺の歴史を楽しんで学習できる施設を整備すること。

【提 言】**(1) 関係団体との連携**

大阪府、羽曳野市、藤井寺市など関係自治体間の連携を一層強化すること。あわせて関係自治体の住民同士の交流についても積極的に働きかけていくこと。

また、百舌鳥古墳群を将来にわたり末永く保存・保護するため、文化庁だけでなく宮内庁ともこれまで以上に連携・協議・調整を重ねること。

(2) 組織体制の強化

世界文化遺産推進室を局レベルの組織に格上げするなどして、さらなる部局間の連携に努め、市長の強いリーダーシップのもとで全庁挙げて取り組むとともに、スピード感をもって施策推進に努めること。

(3) 教育

百舌鳥古墳群の価値や世界文化遺産登録の意義について、子どもたちに対し、学校園等でしっかりと教育していくこと。

(4) 活動支援

専門家やアマチュアの研究者、研究グループの活動を支援できる体制を構築していくこと。

(5) 海外都市とのネットワーク形成

墳墓・古墳などの類似資産を保有する海外都市との都市間交流を推進していくこと。

※参考意見（議会・議員の今後の取り組みについて）

本特別委員会は、「百舌鳥古墳群の世界文化遺産登録に向けた取り組みについて」を調査テーマとし種々議論を重ねてきたが、その中では議会・議員の役割についても積極的に論じてきたところである。その結果、本市議会での議論に加え、これまで以上に関係自治体議会との連携や各種活動への参加が必要であるとの結論に至ったため、委員会として下記の事項を取りまとめた。

◇大阪府、羽曳野市、藤井寺市と4者が一体となった推進議員連盟を設置するなど、議会・議員間による連携・支援体制を構築していく。

◇古墳群を活用したまちづくりに関わる会議等の構成メンバーに議員も加わる。また、古墳周辺地域の清掃活動への参加、議会主体のシンポジウムの開催など市民レベルの活動に積極的に参加し、世界文化遺産登録に向けた機運の醸成を図っていく。